

発行日：2023年4月1日

20年前と変わらない「自助自立」の精神

東京都立田園調布特別支援学校
校長 中村 由美子



社会福祉法人もえぎの会におかれましては、本校の卒業生が利用者として、また在校生の現場実習先として、御理解と御協力をいただくとともに、大変お世話になっております。この場をお借りしまして、改めて御礼を申し上げます。

私は令和4年4月1日、東京都立田園調布特別支援学校の校長に着任いたしました。着任後、校長室前の廊下に掲示しております、本校の通学区域である大田区、目黒区、世田谷区内の事業所等の広報を見ていたところ、見覚えのあるシンボルマークに気が付きました。それは「しいの実社」の広報であり、自分の記憶をたどったところ、訪問したことがあることを思い出しました。

私が訪問したのは2002年9月で、同年4月に、「しいの実社」は知的障害者通所授産施設として開設されました。その頃、私は知的障害特別支援学校高等部の教員で、約2か月間、学校を離れて国の研修に参加していました。当時の言葉となりますが、「情緒障害教育」について、全国から集まった30数名の教員と学んでおりました。その研修のプログラムに、「しいの実社」が見学先として設定されていたのです。今も変わらないことですが、先進的で、特徴的な取組をしていたことにより、選定されたのだと思い返しました。

20数年を経て、現在では、生活介護事業、就労継続支援B型事業、就労移行支援事業だけでなく、グループホームや地域生活支援拠点を展開するなど、地域に根差した、そして欠かすことのできない施設となっております。

どうぞ今後とも地域から信頼され、地域に貢献する施設として、益々御発展されることを心よりお祈り申し上げます。

2023年度 もえぎの会 事業報告会のご案内

皆様におかれましては、日頃より、もえぎ会の活動にご理解を賜りまして、ありがとうございます。

恒例のもえぎの会 事業報告会は、コロナの状況を鑑みて、今後できる方法を検討して、改めてご案内申し上げます。昨年度は、限定した方にご参加して頂き、限定した形で、開催するとともに、併せて、活動の状況は、文書にてお届けさせていただきました。

今年度は、少し前進した事業報告をさせて頂き、皆様とお会いして、交流させて頂けますように、願っています。



2022年度事業報告会

もえぎの会 2023年度事業計画

もえぎの会は、理念にある「地域での活動・就労・生活等の総合的な支援を目指す。」ということで、その中核となる日中活動の場と生活の場を運営し、質量とも向上を目指してきた。

今後、さらに世の中の状況の変化、地域の要請に基づいて、サービスの品質向上と併せて運営基盤の強化を目指すとともに、新たに利用者を受け入れ、一方で利用者・家族の高齢化への対応が必要となり、年度目標を「広い世代に対応」として、取り組みを強化する。

しいの実社と沙羅の家の連携強化はさらに重要になり、経験の少ない職員の増加と併せて、改めて、福祉専門職としての意識強化、支援力向上に向けて研修を実施する。

重点課題

1. 事業を継続するための実践の促進

事業を継続するために、法人内部への変化や外部の変化に対応する必要がある。利用者・家族の高齢化・重度化への対応、設備・備品の老朽化への対応など順次対応、実行している。2023年度は、災害など緊急事態に対応するための事業継続計画(BCP)を策定する。

2. 法人本部と事務局の確立

2023年度は、配送業務と店舗運営を事務局からしいの実社に移管する。それに伴い、事務局は法人本部としての位置づけを担えるように取り組む。

3. 高齢化による利用者・ご家族の変化への対応

2022年度は医療連携・送迎体制・家族支援に取組み、課題を整理し、送迎の開始、研修、自立支援協議会への参加を実施した。2023年度は、更に発展させ、基本的な介護技術や知識の習得、医療連携の進展に取組む。家族支援については、ご家族と協同しながら取り組めるようにする。

4. しいの実社と沙羅の家の連携強化

しいの実社、沙羅の家で計画的に職場交流の機会を設け、それぞれの業務を経験することで、相互理解を深め情報の共有を効果的に行えるようにする。また、管理職等においては、お互いの全体会議等に参加し、横断的に交流を進めることで施設間職員の連携を強化していく。

区政功労賞受賞



目黒区は、区政の振興発展と区民福祉文化向上に貢献したかたに、区政功労者として表彰をしています。今年度、もえぎの会 野村理事長が地方自治の発展に尽力し、功労が認められたものとして自治功労を受賞しました。目黒区障害者自立支援協議会の設立時から今日に至るまで続けてきた活動が実績として認められたものですが、野村理事長は、「私個人というよりは、一緒に活動している利用者・家族、スタッフを始め関係する多くの方々と一緒に頂いたもので、感謝しております。」とおっしゃっています。もえぎの会を支えて頂いてる多くの皆様には、この場をお借りして、改めてお礼申し上げます。



第21回 ウィズコロナのリモートしいの実祭 開催

11月26日(土)、第21回ウィズコロナリモートしいの実祭を開催しました。リモートの形での開催は今年で3回目となります。コロナ禍への理解が少し進み、前へ進めるために昨年より少しでも規模を広げたいという思いから、施設外販売に天ぷら川さき様、バルーンアートに碑文谷風船団様にご出店をお願いし、後援会によるバザーも新品のみの取り扱いという形で再開して頂きました。昨年同様、リモートしいの実祭としてカタログ販売と当日の屋外での販売、学芸大学店舗の臨時営業をしました。

当日朝は21年間のお祭り開催で2度目の雨模様となり、雨天対策用の計画に基づき大型テント内にすべての商品を並べ、想定はしていたものの、スタッフも困惑の中でのスタートとなりました。幸いにも開始直後には太陽が顔を出して、結果的に予想以上の賑わいとなり昨年を大きく上回るお客様にご来場いただくことができました。

しいの実祭当日は、利用者さんは通常の活動に加え、バルーンアートや屋外販売の見学・買い物、お祭メニューのランチなどを楽しみました。

感染防止対策をして活動を続ける様子を青木区長、宮澤議長、佐藤副議長、竹内健康福祉部長、田中課長、岩谷課長に視察していただきました。

しいの実社の製品を通して、私たちの活動を地域の皆様にも知っていただくことができたのではないかと思います。



スマイルプラザから駆けつけて



バルーンアートで盛り上がり



いつもより多めに準備

自立生活者表彰を受賞したしいの実社卒業生

2022年12月に、目黒区が開催している障害者週間記念事業「ふれあいフェスタ」において、渡部賢さんが自立生活者表彰を受賞しました。渡部賢さんは、しいの実社学芸大学スマイルプラザの就労移行支援事業で訓練をして、一般企業に就職されました。

就労されて7年以上経過し、平日は仕事に取り組み、時には有給を利用して好きなアーティストのコンサートに出かけることもあるそうです。余暇を楽しみながら充実した毎日を過ごされています。就職をした後も毎年しいの実祭に参加してくださいませ。



母真由美さん、賢さん、青木区長



表彰式当日の渡部さんは、照れたような表情の中に社会人として生活している自信も垣間見え、とても素敵でした。今後とも、もえぎの会ではしいの実社を巣立っていかれた皆さまともつながりを持ち続けていきたいと考えています。お母様は、もえぎの会後援会会員として活動をサポートして下さっています。もえぎの会では、卒業した利用者家族は、家族会会員として継続することができます。

後援会

会員インタビュー

サ 萌木



ヤマ・クリニック

千葉県柏市明原2-1-9
TEL 04-7141-3801
<https://www.yamaclinic.jp>

桜の名所のあけぼの山公園や豊かな自然と水鳥で有名な手賀沼のある柏市の駅近く「ヤマ・クリニック」の山名一平先生にお話を伺いました。

お祖父様が昭和42年に創設され、平成14年にお父様、そして令和2年に一平先生が継承されました。お父様より「人から感謝されるような仕事を考えたら」と助言されたことが医師を目指したきっかけとなり、先代の志を大切に、ご専門の呼吸器内科、総合内科の地域の「かかりつけ医」として日々奔走されています。お忙しい中でも、患者さんの困りごとや不安をしっかりと聞くことを第一に、そして、治療に関していろいろな選択肢がある中で患者さん自身に合うものはなんであるのかを、一緒に考え、話していく中で最善の提案ができるようにという思いで診療していらっしゃいます。



山名一平先生

自粛生活の中でも運動の大切さをご自身から実践され、ご趣味はトライアスロン。残念ながらコロナ禍で大会も中止でお休み中。以前は地域の市民マラソンに3年連続2位で表彰台へ。なかなかの記録と思いますが、主催者に「来年こそ頑張ってください」と、励まされたとおっしゃる話に先生の人柄が現れます。

もえぎの会の利用者の方とお知り合いで、活動に支援ができるのであれば喜んでほしいと思ってくださっています。「当院にも知的障害の方が受診されることがあり、施設の方やご家族が付き添っていらっしゃいます。ご本人は表現することが難しい場合、表情をよく見るようにしています」とおっしゃいます。そして「もえぎの会の会報でいつも心温まっております。引き続き微力ながら応援させていただきます」と大変心強いお言葉をいただきました。



葛西のかなめクリニック Kasai no Kaname Clinic

江戸川区中葛西5-20-14 水戸ビル1階
TEL 03-6808-5881
<https://kaname-cl.jp>

葛西駅から徒歩2分の「葛西のかなめクリニック」の了徳寺剛院長に、お話をうかがいました。

離島を含め大学病院に12年勤務し、浦安でも医療提供していましたが、「医療にまつわる問題を解決したい」「医療の今後のあるべき姿を見つけ、実践していきたい」という強い思いのもと、当時のほぼ全てのスタッフと共に、葛西の地で新規開業したとのこと。医療費抑制や医療担い手の拡大、規制緩和などの問題意識をお持ちですが、コロナ禍で更にその思いを深められたようです。

ある時、近隣の知的障害のグループホームの所長さんから、入所者の内科受診をして良いかと事前に尋ねられ、障害者の受診を断る医院があることを知ったそうです。院長ご自身は受け入れは当然のことで、拒否するような医院は自然淘汰されるべきと話されており、こちらの胸がいっぱいになりました。

もえぎの会後援会とのつながりは、大学時代に野球部監督の息子さんが自閉症で、本人と関わっていたこと。その後、医療も福祉も本質は自助・共助・公助と考えるのに、日本には共助があまりないと感じていたところ、もえぎの会後援会へのお誘いがあり、共助の一端を担えれば、と入会されたそうです。

文字通り「葛西のかなめ」を目指し、情熱的に活動されていらっしゃる院長ご自身のご健康とご活躍を、心からお祈りしたいと思います。



了徳寺剛院長



萌木

西郷歯科クリニック
saigo dental clinic



目黒区下目黒6-20-20
Tel : 03-3713-3346
<https://www.saigo-dental.com>

今年1月に目黒通り沿いから沙羅の家清水やこぶしえんのすぐ近所、目黒区下目黒に移転された西郷歯科クリニックの、家泉育子院長と移転に合わせて山形での修行を終えて戻ってこられた家泉裕香先生にお話を伺いました。現在は9名のスタッフで運営され、歯科医院として

は珍しい全個室の診療室、木のぬくもりが溢れそれぞれのお部屋には清潔感もありつつ気持ちを和ませしてくれる壁紙で彩られています。

従来から、利用させていただいているもえぎの会の利用者や職員もいます。

初めての診察では、まず口腔内をくまなく撮影し、まずはお口の「健康診断」を行います。その「診断結果」をデータで患者さん本人に渡すことで、多くの人が自分の歯の治療の記録や記憶が無いこ



家泉裕香先生、育子院長



木のぬくもりを感じる受付

とがほとんどですが、西郷歯科さんではそれを患者さん本人に持ってもらうということをされています。話を伺う中で、なるほど自分も歯の治療歴についてあまり説明ができないし、自分の歯の状態を深く知ることはありませんでした。裕香先生から話を伺い、口腔内の健康を守るという熱い志がひしひしと伝わってきました。

近くのこぶしえんには、訪問診療にお伺いされているそうです。西郷歯科クリニックのトレードマークとも言える凛とした女性の姿の看板が印象的で、お二人の先生には凛とした雰囲気の中に地域のかたの健康を支えるという熱い思いを感じます。このような素敵なクリニックがあることがとてもありがたいと感じるとともに、もえぎの会も西郷歯科さんにひけをとらないよう熱い思いを持ちながら次世代に託していけるよう運営をしていきたいと感じました。



1月移転の遊歩道沿いの新クリニック

新規後援会員をご紹介します

年会費 1口1,000円 個人会員 1口以上、 法人会員 10口以上

会費はお手数ですが、直接お持ち頂くか、下記口座へお振込みください。

郵便振込口座 00130-5-667751

口座名義 もえぎの会後援会

問い合わせ先 もえぎの会後援会事務局(電話:03-5724-7153)

* 恐れ入りますが振り込み手数料はご負担願います。

沙羅の家 6ユニット合同イベント

沙羅の家 世話人 市川 譲



青空と海を眺めながらのBBQ

沙羅の家祝日イベントとして11月3日(木、文化の日)に沙羅の家6ユニット合同(南、向原、大岡山、清水A・B・C)でバーベキューを行いました。今年のイベントは3年ぶりの合同外出企画ですが、新型コロナウイルス感染対策に万全を期しての開催となりました。沙羅の家では、1週間の間にある祝日は、帰宅することなく余暇支援をしています。そのため、外出、食事、散歩、訓練など職員は、頭を悩ませ、みんなで相談していろいろな企画をします。

当日は幸いにも天候に恵まれました。お台場海浜公園に隣接したレインボーブリッジ越しに

都心を臨む絶好のロケーションにあるアクアシティお台場の屋上半分を貸し切り、バーベキューを楽しみました。

コロナ禍でなかなか外出が難しい中、開催しても大丈夫だろうか…と悩むこともありましたが、利用者さんから高評価をして頂き、久しぶりの外出や外食を皆さん心から楽しんで頂けたようです。トラブル等もなく無事終わられ、担当としてはホっとしたと同時にご協力して頂いた各利用者さんやスタッフ、関係者の皆さんに感謝しています。今年度は利用者さんにさらに楽しんでいただけるイベントを開催できるよう計画をしていきたいと思ひます。



目の前にレインボーブリッジ

沙羅の家清水Aの生活の様子

沙羅の家 世話人 河東かおり



沙羅の家清水A ユニットでは「家庭とはひと味違う団欒」を目指し様々なアイデアを実践中です。毎晩夕食後、有志でYOUTUBE タイム、各々のお誕生日会はお好きなケーキにろうそく、お誕生日カードを用意してお祝いしています。おやつは飲物をコーヒー、紅茶、ココア、カルピスから選んでもらい、食事はヨシケイのヘルシーコースで各自ドレッシングやふりかけを選んでもらっています。

祝日のランチイベントはコロナ禍でもあり、室内でお寿司、釜飯、ロイヤルホスト、ピザタコス等の配達や関西粉モンを作ったり、映画鑑賞等を楽しんだりしています。祝日はお風呂も温泉の素で好評です。今後は、コロナも落ち着いてお出かけも期待しつつ、利用者さんが充実した毎日を送れるよう、自分たちができることを考えサービスを提供していきたいと思ひます。



お誕生日



関西名物!粉モン準備

編集後記

この3年で大変な思いもありましたが、得られたものも多くありました。また気持ちを新たに進んでいきますので、今年度もよろしくお願ひします。(岡田)

発行: 社会福祉法人もえぎの会

住所: 目黒区目黒本町2-7-3

(法人本部)

電話: 03-5724-7153

e-mail: shiinomisha@abeam.ocn.ne.jp

http://www.moeginokai.jp/

